

低出生体重児 クリニカルパス 【患者様用】

ベビー様

主治医:

担当看護師:

病日	入院当日～入院 3 日目	入院 4 日目～入院 14 日目	入院 15 日目～入院 21 日目
目標	必要時、酸素または人工呼吸器の補助を受け呼吸が安定する 母乳またはミルクを始めることができる 腸の動きがよくなり、うんちが出る 点滴を行い、低血糖をおこさない 保育器の中で保温し、体温が安定する	保育器の中で安楽に呼吸ができる 母乳またはミルクの消化が良く、体重が増加する ベッドへ出るために体温が安定する	呼吸が安定し、全量口から哺乳ができる ベッドへ出ることができる
治療・薬剤	保育器の中で、保温をします 赤ちゃんの呼吸を助けるために酸素または人工呼吸器を使います 点滴を行い、必要時には抗菌剤を使います 抗菌剤の点眼、ビタミン K(入院当日・生後 5 日目)の注射または内服を行います 必要時に光線療法(黄疸の治療)を行います 必要時に浣腸を行いうんちを出します		呼吸や消化が良くなってくると、酸素や点滴が中止になります
処置	毎朝、体重測定をします 小児科医師が診察を行います		
検査	血液検査・レントゲン・超音波検査などを行います 黄疸や血糖の検査を行います	黄疸や血糖の検査を行います 定期的に血液検査・レントゲン・超音波検査などを行います 生後 5 日目に先天性代謝異常等検査を行います	
栄養	呼吸が落ち着くと 1 日 8 回の栄養が始まります 消化の具合を見ながら量を調整します 母乳が出始めましたら搾乳して持ってきてください	34 週を過ぎ、呼吸が落ち着くと口から飲む練習が始まります 口から飲めるようになると、両親で授乳ができます 搾乳した母乳を母乳パックに入れて持ってきてください	
清潔	赤ちゃんの呼吸が落ち着くと体拭きをします 保育器の中を清掃し、タオルを交換します 栄養チューブを使っている期間は、母乳や水を含ませた綿棒でお口の中をきれいにします		
指導	赤ちゃんへの触れ方を説明します 搾乳の時間や母乳の運搬方法について説明します	おむつ交換や瓶哺乳を見学していただき、一緒に行います 呼吸や体温が安定すると、保育器の外で抱っこをします 薬剤師からお薬の説明があります	赤ちゃんの退院に向け家の準備などについて確認します
その他	入院当日に入院手続きや面会について説明します。 赤ちゃんの状態によって予定通りではない場合もあります。その都度医師から説明を行いますので不安なことがありましたらスタッフへお声かけください。		